

教科	学年科目	集計結果の分析	後期に向けての課題	
国語	1	現代の国語	自分の考えをまとめたり広げることができたが、ねらいや振り返りも明確にしていく必要があった。多くの知識を関連づける取り組みをしたが、定着には到らなかった。	ねらいを示した上で課題に取り組ませ、振り返りを適切に行うことで定着をはかりたい。小テストの頻度を上げるなど、知識定着に向けて新たな取り組みをしたい。
	1	言語文化	自分の考えを広め深めている実感がわかなかったようである。	昔の人の感じ方、考え方について知り、自分たちと同じだったり違ったりしていることを学んでいるということ認識できるよう言葉に出すようにしていきたい。
	2	論理国語	ねらいを明らかにしながら授業を進めたが、振り返りが十分ではなかった。ペアワークや全体での発表を通して、多くの考えに触れる機会をつくることができた。	知識・読解力ともに自らが実感できる課題を設定したい。多様な考えを有機的に結びつけ、自らの考えに深まりをもたらす展開を工夫したい。
	2	文学国語	授業の目的を理解し取り組んでいるが、身に付いた知識などを活用したり実践的に役に立つ実感がない。	授業で扱った内容を、実践的に活かす場の提供を行っていきたい。
	2	古典探究	生徒は概ね授業の目的を理解して真面目に取り組んでいるが、授業で得た知識などをどのように活用するのが難しいと感じているようである。	問題演習などを取り入れながら、授業で得た知識が他の文章理解にも役立つという実感を持たせるように工夫したい。
	3	論理国語(文系)	「授業の在り方」全般は数値が高く、こちらの意図が生徒にも伝わってきていると考えられる。単元を示し、互いに目的を把握していると考えられる。	できるようになったことの実感が高まっていないので、学習内容をすぐに活用していく活動を行うようにし、学習から生徒の実感までに間隔が生じないようにする。
	3	論理国語(理系)	「自らの考えを広げ深める機会」に関しては肯定的な評価を得たが、「授業の中で身に付いたことや、できるようになったことを実感することができた」については、否定的な評価が多かった。	後期も前期に引き続き、他者と意見を交換し合うなどの言語活動を積極的に取り入れながら、既習事項を応用できるような個人活動や振り返り・まとめの時間を取り入れる。
	3	古典探究	「他者の考えを知り、自らの考えを広げ深める機会」の設定と、「既習事項と関連づけて理解する」指導については肯定的な意見が多かった。対して「できるようになったことを実感」できていない生徒も目立った。	後期も継続して既習事項との関連を意識した古典知識のインプットを行っていきたい。同時に、後期は得た知識を応用させ、他の文学作品を生徒が自力で読み解いていけるよう、力の定着を目指したい。また、文章の大意を把握するだけではなく、設問を理解する力とその設問に対し適切な解答を絞り込む力の向上にも目を向けたい。

地歴公民

1	歴史総合	課題レポートを課したり、歴史的事象を考察する時間を設けたこともあって多くの生徒が自分で課題の解決方法を考えることができた。また、既習事項と関連付けて理解できた実感している生徒も多い。	「他者の意見を知り、自らの考えを広げ深める機会がある」と答える生徒が多かったものの、生徒自身がその機会を活かしていたかどうかは難しいところなので、後期はその部分をサポートしながら授業を展開していきたい。
1	公共	全体的に良好な評価だった。特に他者の考えを知り、自分の考えを広げ深める機会や自分の考えをまとめたり、解決方法について考える機会についての評価が高かった。	授業で学んだことをそれまでに学んだことと関連付けて理解することについてが比較的评价が低かったので、既習事項を踏まえて授業を展開するように工夫していきたい。
2	地理総合	単元のねらい、振り返りの機会を設けてきたが、生徒の評価ではねらいや振り返りの項目で評価が下がっている。反対に課題についてまとめたり、解決方法について考える場面の項目においては概ね良好な評価であった。	学びの目的を明確にすること、振り返りの時間を設けることで、より生徒の学びの質を向上させたい。
2	日本史探究	概ね良好な評価であった。特に単元の中で課題について自身の考えをまとめる、それまでに学んだことと関連付けて理解ができた2項目は高い評価であった。	他者の考えを知る項目が他に比べやや低い評価のため、ペアワークなどを取り入れるなどの工夫をしていきたい。
2	世界史探究	授業の狙いは、概ね理解できているが、他者と考えを共有したり、自分の考えを深めることについての項目が低いことが分かる。	ペアワークの機会や、論述問題への取り組みを増やし、思考力を高める学習を行いたい。
3	日本史探究・精選α	授業の狙いや振り返りの意図は生徒と共有ができていたことが分かる。授業の中で身に付いたことが実感出来ていると自信を持っている生徒が他の項目に比べて少ないことが分かる。	前回までの振り返りやペアワーク等で知識を確認する機会を設けていても、できていると自信がつくまでには至っていないことが課題である。授業中での生徒個人への声掛けを増やしたり、小テストの回数を増やしたりすることで学習活動への評価の機会を増やしていきたい。
3	世界史探究・精選α	概ね良好であったが、授業によってできるようになったと実感させることに課題があった。しかし、既習事項との関わりを意識した授業を意識したので、その項目については多くの生徒の高評価が得られた。	世界史ができるようになる生徒をもっと増やしたいと考える。そのためには単元のねらいや意図を理解させながら、既習事項との結びつきを感じ取ることができるようにしていきたい。
3	地理探究	学んだことを関連付けて理解することや知識をもとに考えをまとめることについては高評価だったが、他者の考えを知り、自らの考えを広げ深める機会についての点は評価が低かった。	ペアワークなどの取り組みを増やすことで、考えをまとめるだけでなく、他者の考えを知り、さらに自らの考えを深められる機会を増やしていきたい。
3	日本史精選β	授業のねらいや振り返りの機会についてや、他者の考えを知り、自らの考えを広げ深める機会の点で評価が低くなっていた。	学習のはじまりのねらいや振り返りの時間を確保すること、生徒の活動的な対話の機会なども増やしていきたい。
3	世界史精選β	授業で身についたことやできるようになったことを実感できたという評価がさほど高くなかった。また、他者の考えを知ること、自らの考えを広げることができたという評価も高くなかった。	授業の進行が早いので、生徒の学習理解や相互の考えを共有する時間があまり多くとることができなかつたことを改善し、現代との関係性の深い部分やまとめの際にそうした機会を増やしていきたい。
3	政治経済	他者の考えを共有するとともに、自己の考えを深める活動を中心に行っている成果が結果として表れている。ただ、実際にテストや試験という形での理解度を担保することができなかった。	政治や経済は普段の生徒の生活に大きくかかわる部分であるので、現代的な課題を考える授業を引き続き行うとともに、それに加えて、知識面での充実度を上げて、生徒の満足度を向上させたい。

数学

1	数学Ⅰ・A	授業のねらいの理解や振り返りの機会が多い。一方で他者との協働学習の機会は多いが、その中で自らの考えを深められたと実感する生徒が少なかった。	他者との協働活動の中でも、こちら側から問題解決のヒントや考え方を提示することで、活動が活発化し、生徒が自らの考えを深められるよう工夫をする。
2	数学Ⅱ	授業内容をできるようになったと実感させることが出来た。一方で、自らの考えを広げ深める機会や、知識をもとに解決方法を考える機会がやや少なかった。	問題演習をさせる際に、他者との意見を共有させながら問題解決をする場面を取り入れていく。また、毎時間の「ねらい」を伝え、毎時間何ができるようになればいいのか見通しをたてさせる。
2	数学B	自分の考えをまとめ、解決方法について考える場面を多く取り入れることができた。しかし、周囲の生徒と知識を共有し、自分の考えを広げる機会がやや少なかった。	問題解決を図る際、他者と意見共有をする機会を取り入れ、他者の意見を知り、自分の考えを深める学習活動を行う。
3	数学Ⅲ	概ね良好であったが受験問題を解けるようにすることを中心に授業を進めたため、他者の考えを知り自らの考えを広げ深める項目で評価が少し低くなっている。	入試問題演習の中で、1つの視点だけでなく複数の視点で物事を捉えるなど数学的な見方を深められるような授業展開を心掛けていく。
3	数学ⅠⅡ	演習中心の授業で、例題の解説と演習で答えを解説することが中心の授業で、他者の考えを知る機会が少なかった。	周囲の生徒と知識を共有し、自分の考えを広げる機会を増やす。
3	数学C	既習事項と関連付けながら、自分の意見をまとめたり、解決方法について考えることができた。自らの考えを広げ深める機会が少なかった。	問題解決の過程で、周囲の生徒と意見等を共有しながら解決する場面をより多く設ける。
3	応用数学(B群)	演習中心の授業で自身の解決方法と向き合う時間が多く、他者の考えを知る機会が少なかった。	授業の振り返りを行うことでできるようになったことを実感させるとともに、問題解決の過程で、周囲の生徒と意見等を共有しながら解決する場面をより多く設ける。

理科

1	物理基礎	グループワーク等を取り入れながら習得したことの活用法を確かめ、それを実感させることができた。物理自体に興味を持ってくれる生徒がやや少なかった。	授業内容だけでなく、身近な事柄や生活との結びつきを実感し、物理や自然科学への関心を高められるような授業展開を心がけていく。
1	化学基礎	すでに学習した内容と関連付けて理解することができるという生徒が多い一方、他者の考えを知ることや、自らの考えを広げ深める機会が少ないと感じている生徒が多い点が課題である。	できるだけ実験やグループワークを取り入れ、生徒どうしで考え、意見を交換できるような場面を多くしていく必要がある。
2	物理基礎	他者の考え方に触れる機会を多く持つことを意識して授業を作っていた。授業内容や最終到達点がやや不明確になってしまっていると感じている生徒がいたということが課題である。	授業内容だけでなく、身近な事柄や生活との結びつきを実感し、物理や自然科学への関心を高められるような授業展開を心がけていく。
2	化学基礎	既習事項と関連づけて理解することはできているがグループワーク等を更に活用して自分をまとめる力、他者に伝える力を養う機会を多くする必要がある。	授業内で理解させるだけでなく、家庭でも自主的に演習を行うよう指導し、問題を解く力をつけさせ、できる実感を持たせる。授業内で考えたり、話し合ったりする機会をより多く取り入れる。
2	生物基礎	できるようになったという実感はある程度あるようである。他者の考えを聞いて自分の考えを広めることや、解決方法を考える機会が少なかった。	知識の定着だけでなく、自分の考えを広げられるよう工夫し、課題の解決に取り組む機会を作っていくたい。
3	物理	授業への取り組みは大変よく、日頃から観測した事象を物理的にアプローチしようとする姿勢が見られる。協働的に学ぶような活動を取り入れていく必要がある。	生徒が希望する進路を実現するために必要な知識を身につかせつつ、議論を交わしたり、協働的に学習できるような授業づくりに務める。
3	化学	授業への取り組みは大変よく、生徒の学習意識は高い。演習問題にもよく取り組んでいるが、知識の定着が不十分である。	繰り返し演習問題を解くことで、知識の定着をはかり、応用力もつけられるように働きかける。
3	生物	授業への取り組みはよく、既習事項と関連付けて考えたり、理解を深めることができているようである。他者の考えを聞いて自分の考えを広めることや、解決方法を考える機会が少なかった。	問題演習等を通じて、他者の考えを聞いて自分の考えを広めることや、解決方法を考える機会をつくっていくたい。

保健 体育	1	体育	他者の考えを聞いて自分の考えを広めることや、目標を考えたりや振り返りをしたりするを機会が少なかったことで評価が低くなった。	ペアワークやグループワーク、学習カードなどを活用し自己の考えを広めたり深めたりできるようにしていく。
	1	保健	指導方法の項目で、「知識をもとに、解決方法を考える」が少々低くなっている。	授業の中で身に付いたことを実生活でも生かせるようにするにはどうしたら良いかを考える時間を取り入れていきたい。
	2	体育	基礎的な動きの確認や技術練習を授業前半で行ったことで、試合形式の内容になった時に自己の技能の向上を実感できている。	生涯続けられる種目を見つけるという卒業後の目標も生徒に伝え、日常生活にも運動を取り入れられるよう指導していきたい。
	2	保健	ペアワークやグループ活動を通して、他者の意見を聴き、自己の考えを広げることができた。	授業の内容から課題の解決方法を考える時間を取るようになっていきたい。
	3	体育	概ねよい評価であり、3年生になってからも、できるようになったことを実感できている。	残りの学習の中でも、達成感等を感じることでできる授業づくりを行い、生涯運動に親しむことのできる基盤を作る。
芸術	1	音楽 I	音楽の授業での活動を通じ、自己の表現の方法や表現したいことを意識できるようになったようである。	具体的な表現の手段や技術を身に付け、自己表現できるように深めていきたい。
	1	美術 I	授業の中で身に付いたことや、できるようになったことを実感することができたという生徒が多く、知識を技術に活かすことができているようである。	ねらいや振り返りは題材のはじめと終わりに行っているが、結果を見ると数値は高くないので十分に伝わっていないか、もしくは質問文の毎時間というところで行われていないと判断している可能性がある。
	3	素描(B群)	概ねよい評価であり、自律的な学習態度を身に付けつつある生徒が多い。	引き続き意欲的に取り組めるよう課題の工夫や実施の工夫をしていく。
英語	1	英語コミュニケーション I	各単元にて、他者の考えを知り自らの考えを広げ深める機会には一定の成果があった。既習事項と関連付けることで、基本的な知識の定着を今後も図りたい。	生徒に身につけてほしい知識や技能を明示することで、生徒と各単元の目標を共有する。加えて、パフォーマンステストを通して、生徒の学習意欲をより引き出す指導を組織的に実践する。
	1	論理表現 I	他者と考えを交換することにより自分の考えを深め、表現することに一定の成果があった。既習事項と関連付けて、理解することができた生徒も多かった。	試験までの時間が不足気味の時に、授業のねらい・振り返り時間を十分にとることができないことがあったかもしれないが、ねらいをはっきりさせることで学習の効果が上がると考え、改善したい。
	2	英語コミュニケーション	「他者の考えを知り自らの考えを深める機会」が3.30ポイントで、生徒が主体的に学んでいることが分かる。一方、「学習のねらいや振り返りの機会」は3.05ポイントと低く、単元の冒頭で学びの意味を提示し、終わりに振り返りの機会を確保することが重要である。	引き続き、生徒が主体的に学ぶ機会を確保し、授業のねらいを示すことや振り返りを行う。また、後期のディベートでは目的を明確にし、振り返りに取り組む必要がある。
	2	論理表現 II	①最も高かったのは3.12で「授業で学んだことをそれまでに学んだことと関連付けて理解することができた」の項目だった。②最も低かったのは2.93で「毎時間の授業や単元(内容のまとめ)のはじめに学習のねらいを示したり、毎時間の授業や単元の学習のあとに学習したことを振り返ったりする機会がある」の項目だった。	①の理由は毎時の授業で教科書の基礎的な文法事項を定着するまで繰り返し演習し、教科書と別で行っている小テストで既習事項を確認する機会を設けているためだと考えられる。②の理由は教科書の文法事項を実生活でどのように使えるようになるかの目標の説明が不十分で、また習得した文法事項を使って英会話や英作文をする機会が少なかったからだと考えられる。後期はスピーチフェスティバルがあり、英語で文章を書いたりスピーチをする機会が増えるためこの項目は改善されると考えられる。
	3	英語コミュニケーション	既習事項と関連付けて理解することができたという声が多かった。生徒の積み重ねと、取り組みの結果である。さらに、高度な内容の中、知識を積み重ねるだけでなく、考え、まとめる機会も設けることができた。	課題解決のための知識を積み重ねることに引き続き注力し、考えたことをやり取りする機会等、学習活動を通じて考えを深める機会をさらに設け、生徒の将来に繋げたい。
3	論理表現 III	「自分の考えをまとめたり、解決方法について考える場面」と「自らの考えを広げ深める」の項目の評価が高かった。この評価の要因として、授業中にライティングを行うために考えをまとめる要素があるからであると考えられる。	比較的「できるようになったことを実感」の項目の評価が低いと、授業を通してできるようになったことをいかに生徒に感じさせられるような工夫や取り組みができるのかを考えていく必要がある。	
家庭	2	家庭基礎	全体的に概ね良好であった。授業数が少なく、単元ごとの振り返りなど余裕のないクラスがあった。	単元ごとに学習した内容をより定着できるよう、実習など体験的な学習を増やすよう工夫する。
情報	2	情報 I	実習課題を毎時間やることで学習成果を生徒に実感させることができていると考える。一方で、ねらい・振り返りの評価がやや低い。	クラスルームに毎時間内容をアップし毎時間振り返り入力アンケートを作っているが、生徒の利用が少ないので促していきたい。